

38th

OPEN

伝える・つながる・広がる

INNOVATION Cafe



2026

5.15 (金)

15:00 - 17:30 (開場 14:30)

会場：クリエイティブラボ神戸 (CLIK)
INNOVATION PARK 2F

新生児医療と心臓手術の最前線

～臨床現場の課題を科学で解き明かす、新たな医療の可能性～

兵庫県立こども病院の医師をお迎えし、小児医療の実臨床の最前線をテーマに、講演とディスカッションを行います。日々の診療現場で直面する課題や工夫、そこから見えてくるニーズを共有しながら、臨床のリアルを起点に新たな可能性を探っていきます。



岩谷 壮太 先生

兵庫県立こども病院
周産期医療センター
新生児内科 部長



松島 峻介 先生

兵庫県立こども病院
心臓血管外科 医長



モデレータ

長谷川 大一郎 先生

兵庫県立こども病院
血液・腫瘍内科 部長

講演内容の詳細は裏面をご参照ください。

講演後は、ミニプログラム（5分企業紹介）と参加者同士の交流の時間をご用意しています。
※ 5分紹介企業（5社）も募集中！

参加
申込



詳細・お申込みは、URL・QRコードよりご確認ください。

https://www.fbri-kobe.org/event/detail.php?event_id=898



公益財団法人神戸医療産業都市推進機構
E-mail : liaison@fbri.org Tel : 078-306-2230
共催：神戸市 協賛：神戸都市振興サービス株式会社

プログラム / 講演内容のご紹介

15 : 00 ~ 15 : 05 開会挨拶

15 : 05 ~ 15 : 15 兵庫県立こども病院の紹介 長谷川 大一郎 先生 (血液・腫瘍内科 部長)

15 : 15 ~ 15 : 35 プログラム1

新生児黄疸はヒトが調整できる システムなのか？

講師：岩谷 壮太 先生

(兵庫県立こども病院 周産期医療センター 新生児内科 部長)

新生児黄疸（高ビリルビン血症）は、多くの赤ちゃんにみられる身近な現象ですが、高度な場合にはビリルビン脳症を発症することがあるため、新生児医療の現場では光療法によってビリルビンを低下させることが標準的な治療となっています。一方で、光療法には乳児期の発がんや小児期のアレルギー性疾患の発症との関連が指摘されるなどの懸念もあり、現在ではより適正な治療判断が求められる時代となっています。また、成人を対象とした疫学研究では、体質性黄疸の人では脳梗塞や心筋梗塞などの心血管系イベントが少ないことが報告され、ビリルビンの抗酸化作用にも注目が集まっています。では、なぜヒトは生まれてすぐにビリルビンが上昇する仕組みを持っているのでしょうか。本講演では、新生児黄疸を単なる「病気」としてではなく、ヒトの体に備わった調整の仕組みという視点から捉え直し、私たちは新生児黄疸とどう向き合い、どのように調整していくべきかを皆さんと一緒に考えていきます。

15 : 35 ~ 15 : 55 プログラム2

ハンドメイドな心臓半月弁手術に 科学的根拠を付与する in vitro 実験

講師：松島 峻介 先生

(兵庫県立こども病院 心臓血管外科 医長)

臨床研究や実臨床で倫理的問題の解決が問われる現代でも、心臓外科では外科医の発想と経験を基に行うハンドメイドな手術が数多くあります。大動脈弁の変形の修復や手作り肺動脈弁の移植といった半月弁手術がそれに当たり、必要に迫られるが故に実患者で試行錯誤が続けられています。循環模擬回路と流体力学的解析を用いて、その試行錯誤の場と結果を予見するツール開発が本研究の命題です。“職人技”な外科医手技を、客観性と再現性を持つ“科学技術”にする試みを皆様にご提示できればと考えています。

15 : 55 ~ 16 : 10 ディスカッションタイム モデレータ 長谷川 大一郎 先生

16 : 10 ~ 16 : 35 ミニプログラム：5分企業紹介（5社）※募集中！

16 : 35 ~ 17 : 30 交流会 ※コーヒー ☕ をご準備しています！



※時間・内容は変更になる場合があります

38th
OPEN
INNOVATION Cafe